

ICTを活用した授業づくり～学習効果を高める授業の工夫～

- 1 指導学年 小学校 1 学年
- 2 指導教科 国語
- 3 単元 「おとうとねずみチロ」
- 4 学習目標 (ねらい)
 - ・ 登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる。
- 5 評価規準
 - ・ 読み取ったことが現れるように、チロの言葉を声に出して読んでいるか。
- 6 ICT活用の目的, 期待されるITC活用の学習効果
 - ① 上級生や友達の上手な読み方について、どんなところが自分の読み方と違うかを客観的に見ること
で、よりよい音読に近づけることができる。
- 7 ICT活用コンテンツ・機器
 - ・ デジタルカメラ ・ コンピュータ ・ テレビモニタ (50 インチ)
- 8 指導過程 (8 / 17)

	学 習 活 動	指導上の留意点 (評価)
導 入	1 おばあちゃんにお礼を言うときのチロの行動や会話から様子や気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ チロはもらったチョッキを着て、何をするために木へ駆け上っていたのかを考えさせ、チロの様子や気持ちを読み取らせる。 ・ 自分がプレゼントをもらったときのことを想起させ、チロのうれしさを想像させる。
展 開	2 おばあちゃんにお礼を言ったチロの様子や気持ちを想像しながら音読する。 3 上級生の音読の仕方を鑑賞して、表現の工夫について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ おばあちゃんにお礼を言うときのチロの様子や気持ちを想像しながら音読させる。 ・ どんなところを工夫すれば、チロの様子や気持ちを音読に表すことが出来るか話し合う。
終 結	4 本時の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心に残るところ、好きなどころに線を引かせ、工夫をして音読させることで、読み取ったことを振り返らせる。

9 成果と課題

- 登場人物の行動や場面の様子から、心情の読み取りは話し合いによって理解させることができるが、その様子を音読する自分がどのように表現しているのか客観的に自己評価することは難しい。そこで、自分の音読する姿をデジタルカメラの動画撮影機能を活用して「声の大きさ」「強弱の付け方」「間の取り方」等の観点を与えて自分の姿を評価することで、よりよい音読の仕方をしようとする意欲を引き出すことができた。
- 手本となる上級生の音読を鑑賞することで、自分の音読の様子と比較し、どんなことに気を付けて音読をすればよりよいものになるのか、自分なりの目当てを持つことができた。
- デジタルカメラを活用することは、再生する際に PC が必要となり準備に手間が掛かった。録画・再生がタブレット端末のように 1 台で完結するものであれば、さらに日常的に活用できるものと思われる。



